

会議顛末書

						記 録 者	福 島 優				
供 覧	市 長	副 市 長	部 長	次 長	課 長	課 補 長 佐	主 係	査 長	グ ル ー プ 員		
件 名	令和6年度 第1回 牛久沼活用推進協議会 会議										
年 月 日	令和6年7月3日 (水)										
時 間	午後3時00分から午後4時30分まで										
場 所	株式会社諸岡 会議室										
出 席 者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 周辺市町長 龍ヶ崎市 市長 萩原 勇 牛久市 市長 沼田 和利 取手市 市長 中村 修 つくば市 市長 五十嵐 立青 つくばみらい市 市長 小田川 浩 河内町 町長 野澤 良治 茨城県・牛久沼活用機関 茨城県政策企画部長 北村 孔敬 牛久沼漁業組合代表理事組合長 堤 隆雄 龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブ 海老原 徹 </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 顧問 茨城県議会議員 長田 麻美 星田 弘司 山本 美和 鈴木 将 ヘイズ ジョン うの のぶこ 横田 透 細谷 典幸 中山 一生 坂本 隆司 </td> </tr> </table>									周辺市町長 龍ヶ崎市 市長 萩原 勇 牛久市 市長 沼田 和利 取手市 市長 中村 修 つくば市 市長 五十嵐 立青 つくばみらい市 市長 小田川 浩 河内町 町長 野澤 良治 茨城県・牛久沼活用機関 茨城県政策企画部長 北村 孔敬 牛久沼漁業組合代表理事組合長 堤 隆雄 龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブ 海老原 徹	顧問 茨城県議会議員 長田 麻美 星田 弘司 山本 美和 鈴木 将 ヘイズ ジョン うの のぶこ 横田 透 細谷 典幸 中山 一生 坂本 隆司
周辺市町長 龍ヶ崎市 市長 萩原 勇 牛久市 市長 沼田 和利 取手市 市長 中村 修 つくば市 市長 五十嵐 立青 つくばみらい市 市長 小田川 浩 河内町 町長 野澤 良治 茨城県・牛久沼活用機関 茨城県政策企画部長 北村 孔敬 牛久沼漁業組合代表理事組合長 堤 隆雄 龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブ 海老原 徹	顧問 茨城県議会議員 長田 麻美 星田 弘司 山本 美和 鈴木 将 ヘイズ ジョン うの のぶこ 横田 透 細谷 典幸 中山 一生 坂本 隆司										
内 容	<p style="text-align: center;">〈会議傍聴の申し出があり、1名の入室許可〉</p> <p>1 開会 事務局による開会宣言。</p> <p>2 龍ヶ崎市長あいさつ 萩原市長よりあいさつ</p> <p>3 出席者のご紹介 事務局から各首長及び顧問を紹介。</p> <p>4 議事 牛久沼活用推進協議会規約、第6条第1号に基づき、萩原市長が議長となる。 ・議案第1号 <u>令和5年度事業報告について</u> ・議案第2号 <u>令和5年度歳入歳出決算について</u> 事務局より、「議案第1号 令和5年度事業報告について」及び、「議案第2号 令和5年度歳入歳出決算について」、資料に基づき一括して説明。 本協議会の設立や牛久沼の環境保全活動について、報告を行うと共に、歳入歳出決算が0円であったことの報告を行った。</p> <p style="text-align: center;"> ≪質問はあがらず、異議なしの声≫ 議案第1号及び第2号について、原案のとおり可決された。 </p>										

- ・議案第3号 令和6年度事業計画(案)について
- ・議案第4号 令和6年度歳入歳出予算(案)について

事務局より、「議案第3号 令和6年度事業計画(案)について」及び、「議案第4号 令和6年度歳入歳出予算(案)について」、資料に基づき一括して説明。牛久沼活用推進協議会及び幹事会の開催や、牛久沼の有効活用、環境保全活動について説明するほか、具体的な事業が定まっていないことから、今年度の歳入歳出予算についても、0円を見込んでいることを説明した。

《質問はあがらず、異議なしの声》

議案第3号及び第4号について、原案のとおり可決された。

5 その他

(牛久市長) 昨年度末に本協議会が設立されたことから、龍ヶ崎市から牛久市まで、自分の足で歩いてみたが、牛久市管内においては、設立会議の際に話題に出たマラソンや、自転車競技等にはそぐわない地形ばかりである。

今後、本協議会において、牛久沼の活用方法について話し合いがなされると思うが、いずれにせよ各自治体ハード面での費用負担は大なり小なりかかってくるのが予想される。

また、ランナーやサイクリストのように、走ることを目的としている方以外にも気軽に周遊できるようなものがあると良いと思う。

例えば、Luup(電動キックボード)のような物もあっても面白いと思うが、研究や調整に時間を有すると思う。

(取手市長) 昨年の水害において、二千間堤のみならず、牛久沼周辺において、地盤沈下が発生していることが分かったため、安全面の確保が最優先だと思われる。

そこで、顧問の皆様の力を借り、なるべく早く安全確保できれば良いと考えている。

また、周遊ルートしかり、アクティビティ等いろいろな活用方法を見出し、牛久沼を観光資源として打ち出していきたい。

(つくば市長) 昨年度、本市では牛久沼カヌー体験というイベントを開催したのだが、募集したところ、すぐに定員が埋まってしまったところである。

今年度も、同じような企画を秋に2回程度開催予定である。

そうした中、牛久沼をどのように活用していくか、考えたところ、やはりウォーターアクティビティでの活用が有意義なものだと感じている。

今後、つくば市としては、カヌー体験と六斗の森キャンプ場との連続性をどのように見出していくかも課題となっているところである。

また、個人的な意見ではあるが、周遊ルートを全面アスファルト舗装してしまうと、マウンテンバイクなどの悪路を走る競技からすると、非常に活用法としてはもったいないと感じるところである。

そこで、トイレ等の整備は必要であるが、リンリンロードのようなサイクリングロードと同じように全面舗装

のような大きな開発をするというよりは、自然を楽しむ利活用に特化してもいいかもしれない。

(つくばみらい市長) つくばみらい市は、マップに記載のとおり、きらく山ふれあいの丘、麓部分が若干隣接している程度であるが、きらく山から見る牛久沼は非常にきれいである。

しかし、きらく山は土山のようなものであり、雑草雑木が生い茂ってしまう。

手入れを行うことで、景色を楽しむために活用していくことは可能だと感じている。

だが、現段階では牛久沼をどのように活用していきたいか等、方向性が定まっていないことから、各自治体で予算を持ち寄り、というところまで行っていないと感じる。

また、本市には自然公園があり、外部の方に調査してもらったところ、貴重な生物が生息する、すばらしい公園だということが分かった。

そういった、身近な人では気づけないこともあるため、外部の意見は重要である。

そのため、今後も、本協議会を中心として、牛久沼の可能性について協議していければいいと思っている。

(河内町長) 本町は、直接牛久沼に隣接はしていないが、水田の関係上、牛久沼土地改良区から送水してもらっている状況である。

牛久沼の水がきれいになれば、来訪者が増えると思うので、水質浄化や自然保護にも注力していくべきだと感じている。

(茨城県政策企画部長) 今年度の取り組みとして、牛久沼の夕陽を活用していくとの話が出たが、実際見たことのある人でなければ感じることでできない素晴らしいものであり、PRの仕方でのいろいろな活用方法があると感じている。

(海老原氏) 牛久沼は、沼と名称されていることから、底地が泥と勘違いされることが多いが、泥は一部のみであり、大半の底地は砂である。

そのため、各種アクティビティを行うには、非常にいい場所である。

また、牛久沼の美しい景観を活用するための周遊ルートには、現在、離発着点となる場所がなく、トイレなどもないことから、整備する必要があると思われる。

(堤氏) 漁業組合の立場から見た牛久沼であるが、牛久沼は農業用水であると共に、我々が漁業を行っている場所である。

私自身、漁業組合長を20年程、務めさせていただいているが、先代の組合長も牛久沼の自然をいかにして守っていくかを思案していたと記憶している。

水質は一度破壊されると、再度きれいにするには、百年かかると言われている。

首都圏から50km圏内の市町が、この広大な沼を所有しているケースは非常に珍しい。

龍ヶ崎市に家を買う人は、牛久沼の美しい景観を一緒

に買っているようなものだと思う。

使い方次第では、大きな観光資源となりえるが、逆もしかりであり、使い方を間違えてしまうと、大変なことになってしまう。

現在、牛久沼では、ミシシippアカミミガメが大量繁殖しており、生態系に悪影響を及ぼしている。

予算を最大限に活用し、年間2,000匹を殺処分しているが、稻荷川上流、谷田川上流、西谷田川上流など、駆除していない地域で繁殖するため全く追いついていない状況である。

また、牛久沼の夕陽を活用するのであれば、道の駅予定地だった場所へ、夕日を楽しむことのできる何かを設置していただきたい。

(つくば市長) 堤氏より、生態系の話が出されたが、牛久沼では、どのような生物や植物が生息しているか等、生態系にまつわるデータを当協議会メンバーにおいて、保有または把握しているのだろうか。

無いのであれば、一度生態系調査を実施してみてもどうか。

また、亀の殺処分の費用について、活用推進協議会に加盟している自治体で予算を持ち寄り、殺処分数を増やしても良いのではないだろうか。

(堤氏) 年間5,000匹駆除しようと思えば出来てしまうほど、大量繁殖してしまっているため、予算が増えるのはありがたい。

(長田氏) 自然を守りながら、牛久沼を観光名所として利用していくのであれば、隣接している市が、河内町やつくばみらい市に、何を推し進めていくのか、プレゼンテーションしていかなければ、全市町同じ方向を向いて進んでいくことはできないと思う。

そこで、一度専門家を招いて、牛久沼について、勉強会を行っていただきたいと思う。

その後、リゾート開発や環境保全についても同様に、勉強会を行い、全市町同じ目標に向かって協議会を進めていかなければ話はまとまらないと思われる。

(星田氏) 荃崎地区の皆様から、牛久沼でサイクリングロードや水辺公園を活用してのイベント、花火大会などを行えないかと意見を多数頂戴しているところである。

今後とも、本協議会において、連携を図っていきたいと考えているため、皆様のお力添えをいただきたい。

(山本氏) 数年前に、牛久沼の活性化を図ろうとしている民間の方々が集まった勉強会に参加したことがある。

そこで、サップを利用し、牛久沼の中心へ行ったが、そこから見る牛久沼の風景の良さは体感した方にしか分からないものである。

現代社会では、非日常が求められる中で、需要は高いと感じている。

そうした中、萩原市長のリーダーシップの元、全市町が一丸となって、牛久沼の活用が促進されることを願っている。

(鈴木氏) 我々顧問や協議会メンバーが、周遊ルートに入っている各種観光名所の存在意義を見出していくのは当然である。

しかし、それよりも、近隣市町に住んでいる方々に、まずは知ってもらうことが大切だと感じている。

今後の牛久沼の活用方法についても、方向性をしっかり見定め、道筋をしっかりと立てながら事業を行っていくことが大切である。

(ヘイズ氏) 牛久沼の自然を守っていきたいと思っている。

しかし、人間は生きていく中で、どうしても水を汚してしまうため、ウォーターマネジメントが必須だと感じている。

(うの氏) 生態系の調査が議論の中でなされたが、牛久第三中学校において、当該調査を行っている。

そういった地元で行っている事業と連携を図り、生態系調査を行っていくのがいいと思われる

また、荃崎橋や森の里のような上流も、牛久沼の一部であるため、同じ意識をもって、ミシシippアカミミガメの駆除を行っていく必要がある

(横田氏) 隠れた観光名所などは、地元の方では気づきづらいものであり、他市町村から観光や移住してきた方々が見つけてくれる場合が多い。

そこで、「これ」を観光の主軸にしていこうといった時に、本協議会の知恵も必要だが、それだけではなく、全く牛久沼を知らない人からの意見を取り入れることで、何かしらのヒントになるのではないだろうか。

(細谷氏) 茨城県では、今後、堤防高の測定を行いながら近隣住民の安全を第一に考え、防災対策を行っていくと報告を受けたため、こちらで情報共有させていただく。

また、先程、外来種の話が出たが、茨城県では県民の皆様に環境税を納めて頂いているため、そういった外来種の駆除に役立てることはできないのか協議を行ってきたい。

(中山氏) 牛久沼は今まで、いい意味で手付かずだったため、今なお素晴らしい自然が残っており、そこが牛久沼の強みだと、私は感じている。

そういった反面、常磐線龍ヶ崎市駅から徒歩圏内であることや、国道6号線と隣接するなど、非常にアクセス性が良い中で、今後どのように水辺の魅力を活かしていくかがポイントになっていくと思われる。

また、各自治体に、六斗の森キャンプ場のような、水辺にアプローチできる場所があれば、場所同士、点と点をつなぐことで、相乗効果が生まれ、よりよい観光資源になる

と思われる。

(坂本氏) 牛久沼は、龍ヶ崎市をはじめ、近隣自治体にとって非常に魅力度が高い観光資源である。

今まで牛久沼に関する協議を図る場がなかったため、当協議会の設立は非常にありがたいことである。

今後も本会において、各首長同士の議論がなされることが非常に大切だと感じているところである。

また、本日観光の話が出てきたが、観光地を整備する前に、方向性を明確にし、どのように進めていくかを定めることが第一だと考える。

時間は非常に掛かると思うが、中山委員の言う通り、各自治体において、観光の肝となる点と点が出てくることで、線となり、最終的には一つとなり、周遊ルートが出来上がる。

そうすることで、牛久沼はより発展していくと思われる。

(龍ヶ崎市長) 県南地域において、新たに人に来てもらえる場所はどののだろうか、色々な方に話を伺うと、自然環境に優れている牛久沼ではないかという話をいただくことが多い。

今後、牛久沼を活用し、様々な方に来訪してもらいたい。

現在は、東京のベッドタウンのような立ち位置が強くなっていると感じるところである。

今後も、牛久沼の自然環境をどのように活用していくか、協議会メンバーと協議していき、出された案を精査し、どんどん前に進んでいきたい。

情報公開	公開	非公開（一部非公開を含む）とする理由	(龍ヶ崎市情報公開条例第9条 号該当)
		公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)	年 月 日